

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200890		
法人名	株式会社グロリアコーポレイション		
事業所名	グループホームめぐみの丘2		
所在地	花見川区三角町178-25		
自己評価作成日	令和3年10月2日	評価結果市町村受理日	令和3年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>担当者制度を設けて、入居者一人一人のできることを尊重できる個別ケア。担当者だけでなく、フロアスタッフ、計画作成者、管理者が共有できる関係性。個々の残存能力を活かし、さらに発展できるように日々カンファレンスを行い、生活の質向上に努めている。バイタルリンクの導入により医師、看護師、薬剤師とのインターネット上でのリアルタイム情報共有ができるようになった。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員はそれぞれ役割を持っており、責任感や意識を高めることにつなげている。また、情報共有にも努めており、定例ミーティングに加えて、SNSも使って情報共有をしている。協力医療機関の医師、看護師、医薬と事業所など多職種間でスマートフォンなどを活用してタイムリーに情報共有するバイタルリンクシステムが出来ており、状況の変化に応じて医師に指示を仰ぐことができる。訪問診療医の受診に加え、毎週訪問看護も来訪して利用者の体調管理をしており、利用者や家族の安心感につながっていると思われる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を、常にスタッフの目につく所(事務所)に掲示している。また入職時には理念をもとに研修を実施している。	「個人の尊厳が保たれ、その人らしい生活を支援すること。又、その家族も安心して日常生活や生産活動に従事できるよう社会的に支援すること」を理念としており、利用者にも家族にも寄り添えるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近郊の店舗に協力を得、買い物時に声掛けて頂き、社会参加の機会を設けている。またホーム近くにお住いのボランティアさんに、協力を得ている。	自治会の集会、防災活動、敬老会などの地域活動に参加している。現在、コロナ禍で交流が限られているが、民生委員の協力を得てボランティアなども関わりを持つことが出来ている。	地域と関わりながら暮らしていくことは事業所の方針である。地域の理解と協力を得ながら再び交流が持てるよう検討することが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方から直接入居者へ話しかけて頂いたり、近所の方とスタッフとのコミュニケーションもとれている。民生委員さん協力のもと、ここはどのような施設かを知って頂く努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面でのやりとりではあるが、各方面のプロ(社協、援護課など)から地域の取り組み等の情報をいただくとともに、運営に対する意見、提案を参考にしている。	運営推進会議には地域包括支援センターや民生委員の出席がある。現在は書面での開催となっているが、ホームの現状を報告し、運営推進会議メンバーからは地域の情報を得るなどしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話だけのやりとりではなく、実際に書面や面談等により信頼関係を築けるよう努めている。	地域包括支援センターは毎回運営推進会議に参加している。必要に応じて市の担当課に出かけて、相談などを行っている。また、行政担当者が交代する時はホームの実情を説明し、理解が得られるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員へ「身体拘束」「言葉による拘束」について研修。意識づけを行っているが、交通安全の点から、門扉の施錠は行っている。	身体拘束廃止指針を制定し、3か月ごとに運営推進会議の中で委員会を開催している。職員による言葉遣い、行動制限などについては特に注意している。徹底した利用者目線と利用者理解の下での支援を話し合っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常時、何が虐待にあたるか否かを伝え、職員の意識向上に努めている。万が一、理解不足のスタッフがいれば、時間をかけて指導にあたる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用して入居される方が3人おり、事例的に学ぶ機会が増えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や心配事に対して真摯に向き合い、丁寧な契約を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けていないが、管理者へ情報が集約される体制が出来上がっている。	写真や動画を送付したり、メールによる連絡など、家族等の意見が出やすい環境をつくるようにしている。また、利用者からは普段の会話の中から読み取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、朝のミーティング以外でも管理者への提案、報告がなされる様、常勤スタッフを中心に体制が出来上がっている。	職員とは毎朝および毎月のミーティングを通じて意見交換し、情報の共有に努め、フラットな関係づくりを心がけている。管理者に直接話をする職員も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者、本社労務管理者が密に連絡をとり、現場の声を理解し、常時就業規則の見直しなど現場へのフォードバックに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の思いを定期的に聞き、学ぶ姿勢を尊重し各フロアーの計画作成者とともにスタッフ一人一人の力量を把握している。資格取得、研修に参加意向を汲み取り、積極的にシフト融通。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今期はコロナ禍により、対面での交流は難しかった。ZOOMなどにて交流をはかる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の想いを傾聴すると共に、前生活の関係者より事前に情報を整理しケアの方向性を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	報告、連絡、相談を欠かさず、早期対応を心がけている。判断できない時には各専門機関との連携をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族より希望を伺い、導入の可否や時期について綿密に打ち合わせをし、対応している。またご家族のご希望が入所者の思いと相違があれば、きちんと擦り合わせを実施。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にコミュニケーションをはかり、個々を知る努力をし入居者の喜怒哀楽に寄り添っている。スタッフの親兄弟だとしたら？と想定し、考える努力をし、もうひとつの家族という意識づけをスタッフに指導。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時以外でも、電話やメール写真等駆使して関係を築いたり、ご家族が安心される様、うれしい出来事など報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでの日々の様子や言葉を伝え、関係性が発展していくような支援を行っている。なかなか交流ができない昨今でもテレビ電話などで支援。	馴染みの人とは、関係をたどって連絡するようにはしており、出来るだけ関係が途切れないように努めている。昔なじみの友人ともTV電話を通じての交流を支援するなど工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが中に入り、円滑になるよう会話を促すめなど、適切な声かけにより、皆が楽しめる環境を作っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の連絡は欠かさず実施。実際ご退所、ご逝去された入所者家族が、ホームにボランティアに来ていただいた事もあり。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時、できるだけ生の声が聴けるよう、数名のスタッフが対応し、十分に時間をとり聞き取り実施。	担当者が随時、思いや意向を聞き取ったり、日々の様子から察して、管理者、ケアマネジャーなどと共有している。また、昼食後のスタッフの話し合いでも共有出来るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人だけでなく、ご家族、キーパーソン全ての情報を駆使してプラン作成に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者制度導入により、心身の変化などに一早く気づき、その都度計画作成担当者及び常勤スタッフ、管理者にフィードバックする体制ができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者制度及び、常勤スタッフ、ケアマネとの連携により、常時最良のケアができるように情報更新している。	担当者一覧表が作成されており、利用者個別の思いや希望を随時聞き取りをしている。計画作成担当者を中心に現状を見極め、現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン作成時には管理者だけでなく、スタッフにもプラン作成にかかわってもらっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問入浴を導入や、訪問リハビリの導入など外部サービスを積極的に取り入れている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて地域との連携強化はもちろん、近所の方々とも他愛ない会話により、入所者の笑顔が引き出されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多岐に渡る専門医の力を借りている。もちろん入所前にかかっていた医療関係者との連絡も絶えないようにしている。	契約している訪問診療医の月2回の受診に加え、毎週訪問看護も来訪している。多職種間でスマートフォンなどを活用して情報共有するシステムが出来ており、状況の変化に応じて医師に指示を仰ぐことができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの気づきにも対応できるよう共有の書式を用い、看護師、管理者だけでなく医師、薬剤師そして全スタッフが情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医はもちろん、近隣総合病院連携室、相談員との良い関係を築いている。またホームに戻ることができなくなれば、他のサービスに移行できるように、他社支援員との交流も欠かさず実施		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成し、入所時、契約時に十分な説明をし、ご家族にも納得していただいている。	重度化に対する指針が作成されており、本人の意思を尊重し、心身の状態に応じて、プランを見直し、その人らしい生活が送れるように支援している。要介護3になった時点で、ホームでは看取りをおこなわないことを再度説明し、特別養護老人ホームについて説明するなどの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを常時、事務所に掲示。又、万が一の時の想定した訓練も定期的の実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下での訓練実施。近隣にお住いの方へ避難訓練時に参加をもとめ、協力して頂いている。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練を実施している。地域にも声をかけており、コロナ禍前は地域住民の参加もあった。また、水、おむつ類などを備蓄している。	以前夏に停電した時にエアコンが使えず苦勞した経験がある。事業継続の観点からも、今後の対策が期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護、身体拘束についてのマニュアルなどを用い、教育の徹底。行き届かないケアを見つけてはスタッフ間で注意しあえる環境づくりをしている。	プライバシーの確保について内部研修を実施している。日々のケアの中で、不適切と思われる場面があった場合は、職員間で意見を出し合い、ヒヤリハット報告として提出して共有し、利用者を尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対話に重きをおき、うまく話することができない方に対しては閉ざされた質問形式をとったり、個々の対応と日々の信頼関係構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人と向き合おうとするスタッフの意識が浸透し、入居者本位のケアができています。また思いとの相違が生じれば、納得できるまでの対話時間を設ける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフは細やかな気遣いできています。日々の衣類コーディネートなど、入居者と相談しながら決定するなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁の具材を決めたり、一緒に食材を切ったり、味見したり、いろいろ相談して作る喜びなど体感していただいている。	調理に際しては、職員は利用者と一緒に具材を決めたり、相談をしている。季節感を大切にしており、レクリエーションの一環としてスイートポテトを作るなどして楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を設け把握にしている。好みの飲み物など聞き取り、提供している。また刻み食など、咀嚼、嚥下に問題がある方には、その方にあった食事提供を実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を掲示。スタッフが目でわかる場所にあり、食後欠かさず声かけもしくは支援できるよう努力している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方はチェック表を作成し、排泄パターンを把握。清潔保持に努めている。実際リハビリパンツから布パンツに移行できた方もいる。	排泄パターンを把握して、トイレ誘導をしており、リハビリパンツから布パンツに移行した事例もある。一人ひとりに応じて、自立に向けて支援できるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食事献立に気を使い、スムーズな排便が出来るように支援している。状態に応じて排便コントロールを実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を固定してはいるが、臨機応変にしている。入浴時には一人ひとりとゆっくり会話をす様にし、個々を知る時間としている。	入浴を楽しむことが出来るように、職員が余裕を持って対応するように努め、個別の状況に応じて入浴支援をしている。季節のゆず湯などの他、希望により入浴剤を使用するなど入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの眠りの状態を知るように努め、良眠できる様、夜間スタッフとの連携も欠かさず実施。良質な睡眠ができるような支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルにも入れ、いつでも確認できる、また処方変更の情報は順次共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの会話の中から導き出したり、生活歴の中で出来ることを見出し、それをスタッフ間でつなげていけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでもというわけにはいかないが、できるだけ希望に添えるよう、支援している。担当者もしくは家族が対応できるよう管理者が調整する場合もあり。毎週の買い物を楽しみにしている方もいる。	外出を楽しみにしている利用者には、毎週買い物に同行したり、希望に添えるように担当職員を中心に、職員間で連携している。家族で外出することもある。コロナ禍で外出が出来ない間は「お庭でランチ会」「お庭でお茶会」など、外気に当たる機会をつくっている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて保管している方や数千円程度の金銭を管理している入居者がいる。買い物でちゃんと支払いができるかも確認しつつ、スタッフが間に入って支援。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的に支援。要望時、好きなときに電話、手紙OK。コロナ禍なので、電話を毎日おとなぎしている方もあり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やリビングには、その時期にあった掲示物。季節を感じて頂ける様にしている。又、出来る方には照明の調節など自らしていただく。掃除は基本的には一緒に実施。	共用空間は明るく、季節感のある装飾を施している。リビングにはソファも置いて、利用者が思い思いに寛げるような空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方、会話が弾む方の座席の配置を工夫し、好きな時間を過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	よほどの事が無い限り、ほとんどの家具を持ち込みにして、自宅に近い環境にして頂いている。転倒につながるものは、できるだけなくすように設置。	使い慣れた家具等を持ってきてもらい、利用者が落ち着いて過ごせるようにしている。家具の配置など動線には注意しており、転倒リスクを回避できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	死角になるようなところには、音のなるものを設置したり、常にスタッフが気づけるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと